

令和7年度 第1回 大阪府立平野支援学校 学校運営協議会 議事録

大阪府立平野支援学校
校長 山崎 彩

日 時	令和7年6月17日（火） 10:00～12:00
場 所	大阪府立平野支援学校 小会議室
構成員	陸奥田 維彦（委員） 岩元 康（委員） 市場 達朗（委員） 谷藤 誠宏（委員） 中野 淳子（委員） 増田 恵（委員） 山崎 彩（校長） 長谷川 真哉（教頭） 橋本 伸彦（教頭） 加藤 孝（事務長） 井本 勇気（首席） 橋本 万以子（首席） 玉井 実加（指導教諭） 阪本 祥子（小学部主事） 飯塚 恵子（中学部主事） 服部 麻衣子（高等部主事）
次第	（1）令和7年度 委員紹介 （2）授業見学 高等部Eグループ「体育」 （3）学校経営の進捗状況 ①高等部の指導体制 ②令和7年度学校経営計画 （4）協議
意見等の概要	（2）授業見学について 高等部らしい落ち着いた雰囲気での授業が行われていた。体育館のクーラーも効いており、生徒にとって安全な環境となっていた。教員による的確な支援と生徒に対する励ましや動機付けが行われていたと評価された。準備体操は大型テレビに映し出された教員を手本に取り組んでいた。生徒にとって知っている教員が出ているものの、あまり画面を見ていない生徒もいた。もう少し生徒が目しやす画面（音や背景色の工夫など）にしてはどうかと指摘を受けた。 （3）学校経営の進捗状況について ①高等部の指導体制 医ケア体制の充実、危機管理の徹底、ホスピタリティーなど高等部の指導体制についての説明や授業見学において協働性を感じられると評価された。 ②令和7年度学校経営計画 リスク管理におけるヒヤリハットは、そのつとできるだけ早いタイミングでの共有が大事である。起こった事実だけをとらえるのではなく、起こった背景・原因を分析することが重要である。危機管理に関する避難生活シミュレーションは、例えばポータブル電源の消費具合など、実施してみて初めて気づくことや分かることが多い。実際の場面では学校単位だけでは対応は難しく、地域や医療を巻き込もうとしている点は評価できる。企業ともつながりながらぜひ進めてほしいとの助言を受けた。 シラバスは3学部を越え、教科を軸に12年間を見通して作成できるのは支援学校としての強みである。児童生徒がどの教育課程（類型）に所属しているのか、本人、保護者と学校の共通理解が求められると指摘を受けた。 カリキュラム表をPDCA サイクルから CAP-Do サイクルへ変換して運用している点がとても良い。ただし、前年度に次年度の計画を立てた際、次年度の異動者はその経緯等を把握できておらず疎外感を感じる場合があるため、注意が必要である。「学校教育目標」や「めざす児童生徒像」など、重点目標とシラバスに記載する学習単元との関連性が分かるようなカリキュラム表であればなお良いとの助言を受けた。 働き方改革としての会議スタンダードは、会議の進め方を決め、提案者が時間を意識して要点を抑えて説明することは効果がある。ただし、会議時間の短縮だけを追求すると会議の質が低下してしまう。検討事項が情報共有かをしっかりと区別することも時間管理には効果的である。会議に限らず、日頃から時間を意識することは必要であり、退勤時間だけを早めようとするを持ち帰り仕事をする教員が増えるなどの問題が出ることもあるので注意が必要であると助言を受けた。 どの資料からも教員の工夫や苦勞がうかがえる。これからも教員が児童生徒と向き合う時間を確保できるよう、時間の有効活用を望むとご意見をいただいた。
備 考	・傍聴者なし ・第2回開催予定 令和7年11月28日（金） 10:00～12:00 ・第3回開催予定 令和8年2月17日（火） 10:00～12:00